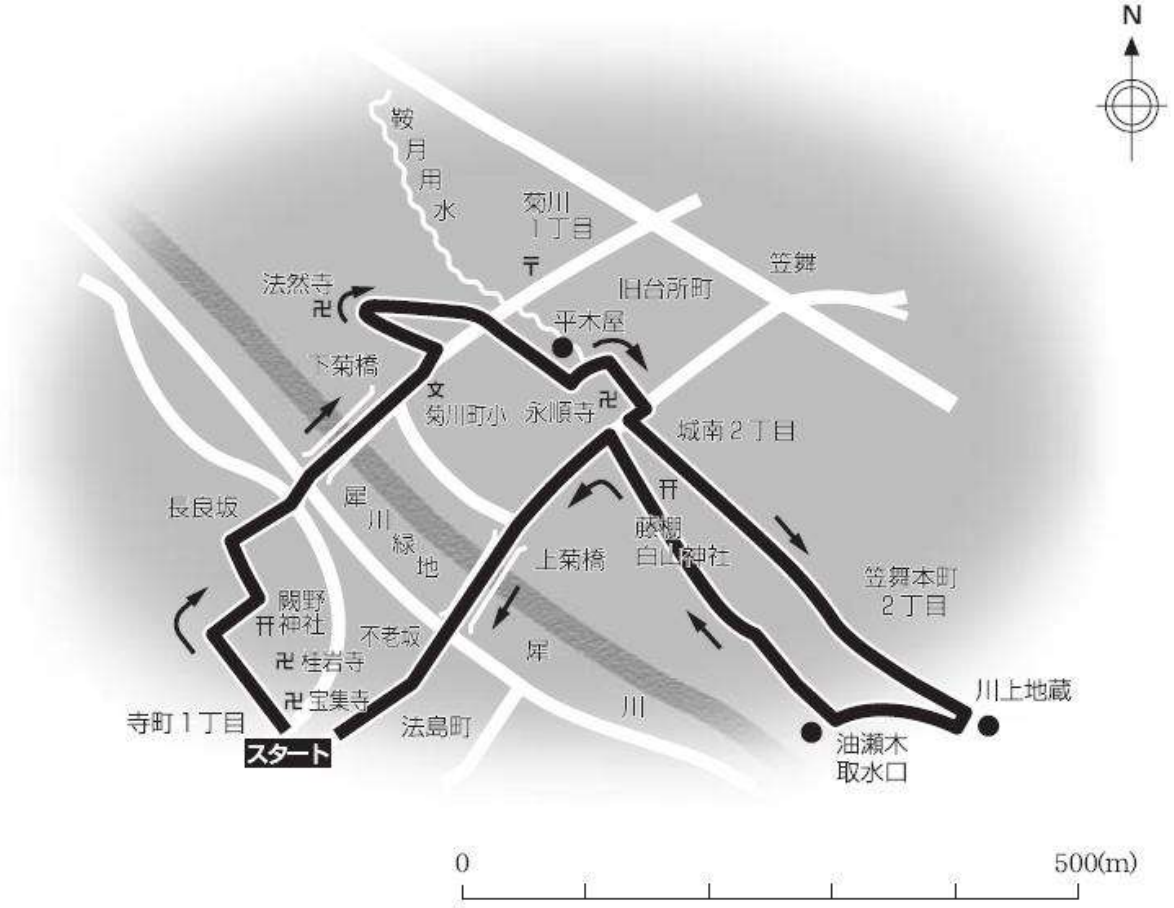
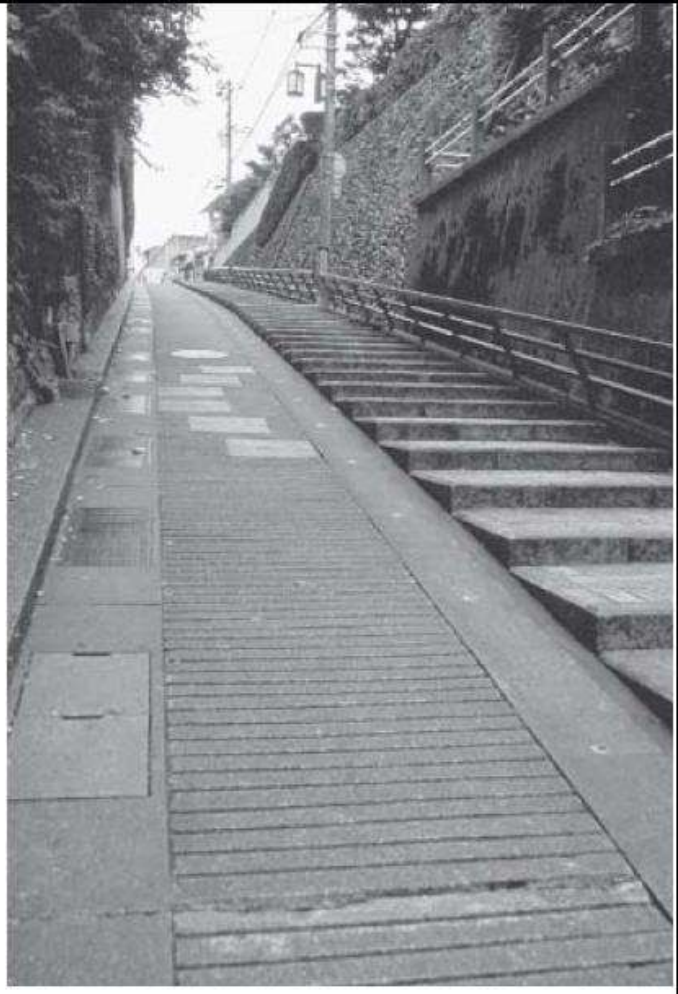
犀川・下菊橋コース

瑞々しい犀川「水と緑と地域の調和」

寺町台地から犀川を望めば、その雄大な水の流れに心惹きつけられ、遥かに続く緑地は、憩いの空間として人々に愛されています。新しい橋の誕生が、地域の歴史と文化に彩りを添える架け橋となることでしょう。

闕野神社（がけのじんじゃ） ➡ 長良坂 ➡ 下菊橋 ➡ 法然寺（ほうねんじ） ➡ 鞍月用水 ➡ 平木家 ➡
旧台所町 ➡ 川上地蔵 ➡ 油瀬木取水口（あぶらせき） ➡ 藤棚白山神社 ➡
上菊橋 ➡ 不老坂





●寺町台地から下菊橋へ

寺町通りを野町方面に進みます。宝集寺、桂岩寺などの寺院に続き、闕野神社に辿り着きます。境内裏手には、樹高25mものケヤキが堂々とそびえていて、寺町台を代表する鮮やかな緑樹です。同じ敷地内には、石で作られた天狗の面が掛けられている樹木があります。

長良坂は、旧長良町に上がる坂。犀川の川風が吹き上がるので,吹上とも呼ばれました。急な勾配ですが、広いゆったりとした階段もあり、歩行者に優しい安心して歩ける坂道です。上から下るにつれて視界が広がり、犀川とそれに続く緑の小立野台地があらわれ、緑の帯でまちが結ばれていることがよくわかります。下菊橋を進み、菊川界隈に向かいます。

●お銀・小金のお話

異母姉妹の深い人間愛を描いた悲話「お銀・小金」は、法然寺に伝わる物語です。文豪・泉鏡花の名作「照葉狂言」の中にも取り上げられています。法然寺には「お銀・小金」の碑や墓などがあり、静寂の中、歴史の重さを今に伝えています。

●鞍月用水

川上広見から大通りを小立野方面に進みます。鞍月用水の菊川放水門がみえてきます。鞍月用水の成り立ちは、油を取るための水車を回すために作られた用水で、延長約14.6Km、犀川上菊橋の上流右岸から取水しています。上流では、流れの姿をみることはできませんが、この菊川界隈では、豊富で爽やかな水流を、あちらこちらでみることができます。用水は、家々の庭木や花々の間を縦横に流れ行き、柿木畠や香林坊などの中心市街地に潤いと情緒をもたらします。

●菊川かいわいのまちなみ

大通りの地下道から反対の通りを進みます。

木造の建物がみえてきます。金沢城下旧足軽組地に位置する武家住宅、平木家です。平成16年、市の指定保存建造物となりました。

平木家の正面、家並みを遥かに凌(しの)ぐモミの大木がみられます。華麗な円錐(えんすい)形の樹容を保ち、自然のたくましさを感じます。用水に架かる鑑(かがみ)橋を渡り、歩を進めます。旧台所町。藩政時代に台所付足軽などの組地があったところから、

この名がつきました。組ごとにまとまって居住していたため、現在も碁盤の目のような区画となっています。

●城南かいわい

城南の通りをしばらく進み、川上地蔵から犀川緑地へ向かいます。

城南児童公園前、油瀬木（あぶらせき）と呼ばれる鞍月用水の取水口がみえてきます。当初は、用水の水量が少なかったため、この堰（せき）を設け水量を豊富にしたと伝えられています。

犀川の中洲では、オオヨシキリなど数多くの野鳥たちが飛来し、茂みの中を行き交います。アオサギやゴイサギ、ユリカモメなどが堰堤（えんてい）に集う姿もみられます。

藤棚白山神社では、樹高19mのクスノキの大木が境内へ誘（いざな）います。４月下旬から５月上旬には、藤棚が春色に境内を染め上げます。

●上菊橋

平成17年４月、上菊橋が架け替えられ、新しい橋として生まれ変わりました。新しい上菊橋は「地域住民に永く親しまれ、人にやさしい橋」との考えから設計されたもので、両側にはゆったりとした幅の歩道が続き、市内の橋では初めて車道部との境に花壇とベンチを設け、橋上ガーデンを演出しています。寺町台地を背景に、上流の美しい医王山などの山並みが眺望できるなど、上・下流の川筋景観が堪能（たんのう）できます。

●不老坂

上菊橋から十一屋方面に上る坂は不老坂という縁起のよい名がついています。近くに風呂屋があり、不老長寿によいというので、この名で呼ばれたともいわれています。坂中腹からは、小立野台地の緑と空の青さが融合した光景が俯瞰（ふかん）できます。